



図1. 水槽内で飼育中のサラサベッコウタマガイ。(前部より見る)。  
Living animal in the aqualium; anterior view.



図2. 水槽前面を登るサラサベッコウタマガイ。(腹面より見る)。  
Living animal in the aqualium; ventral view.

## 田中忠次さんのご逝去を悼む

本多 啓七

最近まで元気で活躍しておられた田中忠次さんが急に亡くなるとは、本当に夢のようで誠に哀惜の情にたえない。

本人が去る9月30日の富山県環境保全審議会に出席された際、現在、病院で検査中なので医師に特別許可を貰って来たと言っておられた。さらに11月4日には、まだ入院中と聞いて、早速お見舞いした。その時にはまだ元気であって、早く全快して下さいと、いろいろと語り合って別れたのに、3日後の11月7日にあの世に行かれるとは。あんな頑健な身体の持主であったのに、余りの人生の脆さに、ただ驚き、悲嘆の涙にくれている。

彼は魚津中学校時代からの大切な親友で、富山師範学校卒業以来、共に野外観察が好きで、自然についてよく語り、互いに自然を楽しんできた。また、不思議な因縁で、富山県の文化財審議、環境保全、あるいは自然保護関係などの会合で席を同じくしてきた。さらに、富山県生物学会、日本黒部学会、くろべ植物友の会などでは大変お世話になったが、何時も役職を快く引受け、それぞれの会の発展に、情熱を傾けて努力して下さったことに対し、深く感謝申し上げて止まないものがある。

田中忠次さんは何ととっても富山県昆虫界の第一任者であり、斯界の確立を計られた功績は甚大で、しかも中央の昆虫学会においても富山県が存在が注目されたことは、富山県生物学会の誇りであった。さらに、日本は勿論、海外にも羽ばたく足がかりとなることを念じておられたことと思われる。

田中忠次さんはこの世で優れた業績を挙げ、名声を残された。その反面、81才の高齢者として、過去を振り返り邯鄲一炊の夢の感があったことも考えられてならない。

この素晴らしい業績を物語るものとして、彼の胸に勲五等双葉旭日章の叙勲が輝いている。なお、さらに、彼にはもっと余生に成し遂げたい仕事が沢山あったことと思うが、本当に親友として亡くなったことが残念で堪らない。

何卒、これらの雑念を断ち切って、やすらかにお眠りください。ご冥福を祈っている。

次に田中忠次さんが各学会誌で発表された数々の論文の中で、特に印象的な項目をあげて故人を偲びたいと思う。

- 1 黒部植物友の会誌「黒檜」では毎号に『郷土の植物ものがたり』を掲載。第13号では、ツルクサを上げ、その形態や薬効、訪花の昆虫類を記載している。また、第30号掲載の『野の花写真散歩』では、ゲンノショウコ・ヘラオオバコ・サギゴケ等を上げ、それらの分布状態、薬効、訪花の状況等を記載している。
- 2 富山県生物学会誌では毎号に「昆虫類の訪花植物」について掲載。第27号では、『双翅類の訪花植物I』を記載し、ハナアブ科の101種が、60科316種の植物に訪花することを上げている。また、第28号では、『双翅類の訪花植物II』を記載し、ハナアブ科以外の41科196種が、38科150種の植物に訪花することを上げている。
- 3 富山県自然保護協会協会報では毎号に、各種の昆虫記録を掲載している。

また、調査委員長として精力的に活躍された。